



本学社会科学研究所とVASSが共同開催した日越外交関係樹立40周年を記念する国際シンポジウムの登壇者一同
=2013年9月、ハノイ市VASS本部

国際交流協定 組織間の友好関係実る

ベトナム社会科学学院と結ぶ

専修大学はベトナム社会科学学院(VASS、グエン・クワン・トゥアン院長、ハノイ市)と5月17日、国際交流協定を結んだ。VASSはベトナム政府に直属する同国最大かつ最重要の学術研究機関。本学とはすでに二つの所属研究所と組織間協定を結んでおり、今後は国際シンポジウムの開催や共同研究などの研究者交流を本格的に展開していく。ベトナムとの国際交流協定は、ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学、国民経済大学に次いで3校目。国際交流協定校は17カ国・地域23大学となった。

VASSは1953年一足。現在は研究所、大学にベトナム初の歴史・地理(社会科学学院)、国立民族学博物館など34の機関を擁し、国家ビジョンや開発政策に科学的根拠を与える役割を担っている。社会科学学院本部はハノイ市の中心部にあり学術研究に特化した図書館を併設している。所属するスタッフは2000人以上。本年度もVASS東北アジア研究所の所長の来学や、VASS本部でインシヤル・ウェルビーイング研究センター主催の国際カンファレンスが予定されている。また今回の締結に尽力した嶋根克己人間科学部教授(社会意識論)は

「2012年に本学社会科学研究所がVASS東北アジア研究所と、社会知性開発研究センター/社会関係資本研究センター(15年から同/インシヤル・ウェルビーイング研究センター)がVASS社会科学研究所と締結。研究者の交流、国際カンファレンスの開催、委託調査などが行われた。日越外交関係樹立40周年にあたる13年9月には、ハノイで国際シンポジウムをVASSと本学社会科学研究所が共同開催。緊密な友好関係に発展した。」

「ベトナムは政治、経済、文化において重要なパートナー。VASSとの提携は、両機関の学術的発展のみならず日越両国の友好的な国際交流の発展に大きく寄与するだろう」と話している。



ハノイ市の中心部に建つVASS本部(左)と併設の図書館

国際交流協定校(17カ国・地域 23大学)

| | |
|----------|---------------------------------------|
| 韓 国 | 檀国大学 |
| 中 国 | 上海大学/西北大学/北京大学国際関係学院 |
| 台 湾 | 国立中山大学 |
| モンゴル | モンゴル国立大学 |
| ベトナム | ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学/国民経済大学/ベトナム社会科学学院 |
| ラオス | ラオス国立大学 |
| カンボジア | 王立プノンペン大学 |
| アメリカ | ネブラスカ大学リンカーン校/サスケハナ大学/オレゴン大学 |
| カナダ | カルガリー大学 |
| メキシコ | イペロアメリカナ大学 |
| イギリス | ブリストル大学 |
| アイルランド | ダブリン大学トリニティカレッジ |
| ドイツ | マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク |
| スペイン | バルセロナ大学 |
| フランス | リヨン政治学院 |
| オーストラリア | ウーロンゴン大学 |
| ニュージーランド | ワイカト大学 |

このほか、4カ国10機関と国際交流組織間協定を結んでいる

専修大学「ホームページ」

http://www.senshu-u.ac.jp/

ニッポン専修

毎月1回15日発行
発行所
専修大学広報課
☎101-8425
東京都千代田区
神田神保町3-8
☎03-3265-5819(直)

主なニュース

- 10 育友会定期総会 東平新育友会長インタビュー……
- 9 国際経済学科公開講座 世界経済の「今」解説
国立中山大学生(台湾)に商学部教授が講義
吹奏楽研が生田緑地で屋外コンサート……
- 8
- 7
- 6
- 5
- 4
- 3
- 2

「センディ」LINEスタンプ



オープンキャンパス

申込不要 無料

| | |
|------|--------|
| 7.16 | 神田 SUN |
| 8.5 | 生田 SAT |
| 8.6 | 生田 SUN |
| 8.27 | 生田 SUN |

すべて 10:00 ▶ 15:00
入学センターインフォメーション
【神田キャンパス】☎03-3265-6677
【生田キャンパス】☎044-911-0794

1回戦を突破し笑顔のナインと酒井監督(右) =6月5日、東京ドーム



石巻専修大学特集4〜7面

健闘! 石巻専大ナイン

全日本大学野球選手権

大学野球日本一を懸けて熱戦を繰り広げた第66回全日本大学野球選手権大会(東京ドームなど)で、石巻専修大学硬式野球部(南東北大学)が健闘した。出場は8年ぶり4度目。

1回戦を6-1で快戦。1-1で迎えた8回、石巻専大は伊藤甲斐内野手(理工3・岩手県)が2塁打を打ち、2回戦は0-1で惜敗したが、2日間の合計スコアとしてプレーに、応援席の石巻専大や専大関係者から惜しめない拍手が送られた。

6月5日、共栄大学(東京新大)との1回戦で敗れたため初

の8強入りはならなかったが、1番打者でチームを引っ張った主将の小野侑宏(二塁手(経営4・宮城県聖和学園高))は「どこのチームよりも楽しむぞ」という気持ちで挑んだ」とさわやかな笑顔。酒井健志監督は「全国大会の舞台に立ち選手は自信を持って。この経験は今後に生かされるはず」と語った。

専大で日本の魅力に触れる カルガリー大生 初の短期訪問



国際交流協定校のカナダ・カルガリー大学は今年度初めて、専修大学を拠点とした短期の日本訪問プログラムを実施した。学生16人が5月末から2週間、生田キャンパス国際交流会館に滞在し、本学学生との対話や書道などを通して、日本について理解を深めた。

カルガリー大学からは毎年、日本語を学ぶ学生がほとんど。専大生との交流を通して刺激し合うことができれば、5月30日、トーク・セッションの場が設けられた。

テーマは「食」。国際交流会館での寮内留学に参加している専大生5人が、「学食の100円朝食」「和菓子」「居酒屋」などについて、英語で発表。カルガリー大生もカナダの食文化や好きな食べ物について話し、大いに盛り上がった。

エドモンド・ホーさんは「とても楽しく、日本について学ぶことができ、専大生のプレゼンテーションも熱意が感じられた」。発表した田中翠さん(経営3)は「伝わっているのか不安だったが、興味を示してくれてうれしかった」と安堵した。

協定校の短期プログラムでは、米サスケハナ大学からも20人が来日し、相撲部を見学するなど、日本文化に親しんだ。この間、国際交流会館にはJLTC参加者と合わせて過去最多となる89人の留学生が生活していた。

日本の食をテーマに語り合った 初挑戦の書道で「風」を書く